

令和2年度
北海道博物館 年度計画
(原案)

令和2年3月
北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2	展示・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3	調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4	北海道開拓の村の整備・・・・・・・・	8
5	教育普及事業・・・・・・・・	8
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化・・・・・・・・	10
7	道民参加型組織の整備・・・・・・・・	10
8	施設及び周辺環境の整備・・・・・・・・	10
9	広報・・・・・・・・	12
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握・・・・・・・・	13
11	博物館ネットワーク・・・・・・・・	14
12	情報発信・・・・・・・・	15
13	人材育成機能の強化・・・・・・・・	16
14	研究成果の発信と社会貢献・・・・・・・・	16
15	アイヌ民族文化研究センターの事業・・・・・・・・	18
【別紙】	ガバナンス体制の確立・・・・・・・・	22

【記号凡例】

- 実施事項
- 重点項目に関する実施事項
- △ 検討・計画作成・実施に向けた取組
- ▲ 重点項目に関する検討・計画作成・実施に向けた取組
- × 今年度実施しない事項
- ★ 実施を円滑に管理・進行させるための会議・ワーキング組織
- ※ 注記
- 関連する予算計上

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

○北海道博物館資料収集基本方針に基づく収集活動を継続的に実施〔年間資料情報件数見込 60 件程度、年間調査収集件数見込約 25 件程度〕

●【重点／新規】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受入予定の樺太関係資料（以下「樺連資料」）約 8,000 点を収集

※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料（約 8,000 点）を適切に収蔵、アーカイブ化するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和 2～16 年度までの 15 年計画で実施。

△【新規】『北海道博物館資料目録』の刊行計画の作成

(2) 収蔵機能の強化

○収蔵資料データベースの適切かつ安全な運用・更新

○【新規】収集した樺連資料のアーカイブ化

△収蔵スペースの確保に向けた検討・取組

△災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討・取組

(3) 資料保存環境の維持

○適切な資料保存環境の維持に向けた取組

- ・捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）〔年間 12 回程度〕
- ・収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査〔年間 1 回程度〕
- ・特別展示室と収蔵庫の空気質調査〔年間 3 回程度〕
- ・担当職員による収蔵庫清掃〔年間 12 回程度〕
- ・全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除〔年間 1 回程度〕
- ・新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業〔都度実施〕
- ・収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理〔年間 12 回程度〕
- ・収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）〔恒常的実施〕
- ・その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）〔都度実施〕

○文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の更新〔令和 2 年 8 月〕

(4) 収蔵資料の利用への対応

○資料の貸出への対応〔年間見込 25 件 500 点程度〕

○資料の特別観覧への対応〔年間見込 70 件 1,000 点程度〕

○資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）〔年間見込 120 件 300 点程度〕

○資料の模写品等使用への対応（開拓の村）〔年間見込 40 件 150 点程度〕

【資料の収集・保存に関わる会議】

★「北海道博物館資料審査会」を活用し、館資料の収集、保存、活用について適切に管理〔年間 12 回程度〕

★「資料収蔵環境管理等に関する連絡会議」を活用し、円滑に資料保存環境を維持

[年間 12 回程度]

【資料の収集・保存に関わる予算計上】

□【新規】樺太記憶継承事業

[資料の保管 2,973 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）]

□北海道博物館事業費（資料保存管理）[495 千円]

2 展示

（1）総合展示室の運営

○総合展示室における展示資料の入替え [年間延べ 40 点程度]

○クローズアップ展示コーナーの更新 [年間延べ 27 回]

- ・クローズアップ展示 1（第 1 テーマ）[年間 6 回]
 - 「近世文書を読む① フラーシェム・コレクション」
 - 「近世文書を読む② 林家文書」
 - 「近世文書を読む③ 工藤家文書」
 - 「近世文書を読む④ 村山家文書」
 - 「近世文書を読む⑤ 岩野家文書」
 - 「近世文書を読む⑥ 近藤家文書」
- ・クローズアップ展示 2（第 1 テーマ）[年間 6 回]
 - 「新選組の元幹部隊士 永倉新八」
 - 「新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵」
 - 「船絵馬」
 - 「旧松前藩士 南條家資料（仮題）」
 - 「北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ」
 - 「新しく仲間入りした歴史資料たち」
- ・クローズアップ展示 3（第 2 テーマ）[年間 3 回]
 - 「伝承者が生きた近現代 平賀さだもさん」
 - 「祈りの造形—狐神の舟」
 - 「キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料」
- ・クローズアップ展示 4（第 2 テーマ）[年間 3 回]
 - 「灰場武雄さんがつくったトンコリ（五弦琴）」
 - 「新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち」
 - 「渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化」
- ・クローズアップ展示 5（第 3 テーマ）[年間 3 回]
 - 「岩手県から北海道へ渡った神楽」
 - 「馬追いの道具」
 - 「吉田初三郎と北海道」
- ・クローズアップ展示 6（第 4 テーマ）[年間 3 回]
 - 「みんなが夢中になった子ども雑誌（仮題）」
 - 「北海道とオリンピック」
 - 「たくぎん（北海道拓殖銀行）（仮題）」
- ・クローズアップ展示 7（第 5 テーマ）[年間 3 回]
 - 「北海道のいろいろなカタツムリ」
 - 「恐竜と鳥をつなぐ骨」

「リンゴはなぜ赤い？ 木の実・草の実の不思議な世界」

○来館者参加型展示コーナーの入替え〔年間延べ4回程度〕

・アイヌ文化Q & A（第2テーマ）〔年間3回程度〕

・総合展示2階出口付近の参加型展示〔年間1回程度〕

○第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え〔年間3件〕

○学芸員紹介コーナーの入替え〔年間1回程度〕

○休憩ラウンジにおける道民参加型展示（北海道化石会の協力によるアンモナイトの展示）

○総合展示の展示資料目録を公開・更新する。

●▲【重点／新規】収集した樺連資料に関する展示

△【新規】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成・取組

（2）企画展示の開催

○特別展の開催〔年間1回〕

・第6回特別展「恐竜展 2020」

開催期間：6月20日（土）～9月27日（日）会場：特別展示室

○企画テーマ展の開催〔年間3回〕

・第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える―北海道博物館資料＋柘谷隆男氏コレクション―」 開催期間：4月25日（土）～5月24日（日） 会場：特別展示室

・第18回企画テーマ展「お葬式」（仮題）

開催期間：10月24日（土）～12月13日（日） 会場：特別展示室

・第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」（仮題）

開催期間：2月6日（土）～4月4日（日） 会場：特別展示室

○アイヌ文化巡回展の開催〔年間1回〕

開催期間：令和2年7月～11月頃 会場：木田金次郎美術館

【展示に関わる会議】

★「北海道博物館展示ワーキングチーム」を活用し、総合展示および企画展示等の事業を円滑に実施〔年間8回程度〕

★企画展実施チームによる会議を活用し、企画展の事業を円滑に管理・実施〔都度招集・開催〕

【展示に関わる予算計上】

□北海道博物館事業費（総合展示）〔591千円〕

□北海道博物館事業費（テーマ展）〔805千円〕

□北海道博物館事業費（展示会等に必要な機器借上）〔183千円〕

□【新規】樺太記憶継承事業〔資料活用3,235千円、財源：基金繰入金、時限付き（15年間）〕

□【新規】地域文化発信事業費（北海道博物館特別展）

〔24,846千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕

3 調査研究

○道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施〔道費による研究：5課題〕

・野幌森林公園の生物インベントリ調査（第二次）（継続：令和元～5年度）

・北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用（継続：平成30～令和4年度）

・北海道及びサハリン（樺太）の「風景」に関する基礎的研究（継続：令和元～4年度）

- ・北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査（新規：令和 2～6 年度）
- ・モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究（継続：平成 30～令和 4 年度）
- 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施〔道費による研究：4 課題〕
 - ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ（新規：令和 2～6 年度）
 - ・湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究（新規：令和 2 年度）
 - ・北方四島の考古・歴史学的総合研究（継続：令和元～4 年度）
 - ・北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究（継続：令和元～5 年度）
- アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト〔道費による研究：2 課題〕
 - ・北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実施（新規：令和 2～6 年度）
 - ＜個別課題＞
 - 「北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）
 - 「北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）
 - 「キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）
 - ・アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（新規：令和 2～6 年度）
 - ＜個別課題＞
 - 「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（仮題）」（継続：平成 28～令和 2 年度）
 - 「アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究（仮題）」（新規：令和 2～4 年度）
 - 「北方文化圏の中のアイヌ音楽（仮題）」（継続：平成 29～令和 4 年度）
 - 「1945 年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）
 - 「近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和～5 年度）
- 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施〔道費による研究：2 課題〕
 - ・北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度）
 - ※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流
 - ※令和 2 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘
 - ・寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度）
 - ※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流
 - ※令和 2 年度は、アルバータから研究者を招聘
- 【重点／新規】収集した樺連資料に関する調査研究〔道費による研究〕
- 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：12 課題〕
 - ・北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究（基盤 B）（継続：平成 30～令和 3 年度）
 - ・巨大噴火・津波の痕跡を軸とした 17 世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究（基盤 B）（継続：令和元～令和 4 年度）
 - ・蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究（基盤 C）（継続：平成 28～令和 2 年度）
 - ・北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究（基盤 C）（継続：平成 28～令和 2 年度）

- ・北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究（基盤 C）（継続：平成 29～令和 3 年度）
- ・少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度）
- ・アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度）
- ・リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源摂取における空間利用の解析（基盤 C）（継続：令和元～4 年度）
- ・考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究（若手）（継続：平成 30～令和 3 年度）
- ・貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発（若手）（継続：平成 30～令和 4 年度）
- ・明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究（若手）（継続：令和元～令和 3 年度）
- ・地理情報システムを用いた、北海道に現存する船絵馬の保存と活用に向けた試み（研究活動スタート支援）（継続：令和元～2 年度）

※令和 2 年度以降の新規課題については、11 件申請中。

○科学研究費による研究（当館職員が研究分担者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：5 課題〕

- ・狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究（基盤 B）（継続：平成 30～令和 2 年度）
- ・官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質（基盤 B）（継続：平成 30～令和 3 年度）
- ・古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築（基盤 B）（継続：令和元～令和 4 年度）
- ・自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築（基盤 B）（継続：令和元～令和 5 年度）
- ・自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索（挑戦的研究（萌芽））（継続：令和元～令和 3 年度）

※令和 2 年度以降の新規課題については、3 件申請中。

○科学研究費以外の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：1 課題〕

- ・博物館と地域の連携による鳥類標本データベース構築—未利用個体の活用に向けたモデルづくり—（笹川科学研究助成）（新規：令和 2～3 年度）

※令和 2 年度以降の新規課題については、1 件申請中。

○定例研究報告会の実施〔年間 12 回〕

※「定例研究報告会」：館学芸員・研究職員・司書の研究レベルの向上に資することを目的に、道費による研究や個人研究の成果、外部資金による研究の成果などについて発表し、知見を共有する場とする報告会。平成 27 年度より、月 1 回定例的に継続実施。

【調査研究に関わる会議】

★「北海道博物館調査研究ワーキングチーム」を活用し、調査研究事業を円滑に実施〔年間 6 回程度〕

【調査研究に関わる予算計上】

- 【新規】樺太記憶継承事業〔調査研究 300 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）〕
- 北海道博物館試験研究費（外部資金活用研究費・一般研究費）〔8,360 千円〕
- 北海道博物館試験研究費（情報集積推進事業）〔7,370 千円〕

4 北海道開拓の村の整備

- 旧近藤染舗の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）
 - 旧小樽新聞社の実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）
 - 旧樋口家農家住宅の老朽度調査
 - 旧岩間家農家住宅の老朽度調査
 - 令和元年 6 月の落雷により故障した火災報知設備等の修繕実施設計〔延べ 31 か所、発注：建設部、指導・助言：博物館〕
 - スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室の多言語解説サービス運用・検証・改善〔6 カ国語、110 コンテンツ〕
 - △開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計 52 棟＋インフラ）
 - △開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計 52 棟）
 - △【新規】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる具体的取組の検討
- ※補修工事の流れ：補修計画→老朽度調査（耐震診断）→実施設計→補修工事
 - ※平成 30 年度より、予算計上ならびに実施設計、補修工事の発注・施工は建設部に移管

【北海道開拓の村の整備に関わる予算計上】

- 文化振興事業費（開拓の村費（旧開拓の村・百年記念塔費））〔2,002 千円〕
- 【新規】文化振興事業費（開拓の村火災等発生対策費）〔10,776 千円、時限付き〕

5 教育普及事業

（1）魅力あるイベントの充実

- 「情報デスク」を活用した交流・誘導〔常時〕
- 解説員による総合展示の展示解説〔常時〕
- 【縮小】総合展示室における「ハイライトツアー」の実施〔5～9 月の毎日、4 月および 10～3 月の土日祝、14:00～15:00〕
- 情報デスクを活用した「学芸員ハローデスク」の実施〔祝日・振替休日〕
- 総合展示室や特別展示室における「ミュージアムトーク」の実施〔一部の祝日・振替休日〕
- 総合展示室における「ハンズオン」の実施〔一部の祝日・振替休日〕
- 総合展示室およびはっけん広場における子供向け「ちゃれんがラリー」の実施〔常時〕
- 諸行事の実施〔年間 48 件 63 回〕
 - ・自然観察会（4 件 4 回）
 - ・子どもワークショップ（11 件 11 回）
 - ・ちゃれんがワークショップ（8 件 11 回）
 - ・講演会（外部講師による講演）（8 件 8 回）
 - ・ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座）（11 件 11 回）
 - ・古文書講座（1 件 10 回）
 - ・アイヌ語講座（1 件 3 回）
 - ・特別イベント（4 件 5 回）

（２）社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

- 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施〔10メニュー、年間150件7,000人参加見込〕
- はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施〔6メニュー、年間220クラス7,000人参加見込〕
- スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充〔現在6カ国語、374コンテンツ〕
- 展示解説器（音声ガイド）を利用した総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充〔6カ国語、67コンテンツ〕
- 学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充
- 令和元年度に開発した視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充
- 令和2年度より学校教育用補助教材の貸出を本格実施

（３）はっけん広場の運営

- 「はっけんキット」の運用〔一般来館者向け、41メニュー〕
 - ・生き物に関するもの（3メニュー）
 - ・地学に関するもの（2メニュー）
 - ・アイヌ文化に関するもの（11メニュー）
 - ・歴史に関するもの（3メニュー）
 - ・生活文化に関するもの（22メニュー）
- 「はっけんプログラム」の実施〔学校団体向け、6メニュー〕
 - ・ヒグマ
 - ・アンモナイト
 - ・アイヌ文化
 - ・縄文文化のくらし
 - ・昭和のくらし
 - ・はっけんキットを使ってみよう（保育園、幼稚園向け）
- 「はっけんイベント」の実施〔一般来館者向け、年間7メニュー〕
 - ・作ってならそう「ゲロゲログエル」（4～5月の土日祝）
 - ・めざせ横綱！恐竜紙すもうを作ろう（6～7月の土日祝、夏休み期間開館日毎日）
 - ・きょうりゅう FAN FUN FAN（恐竜好きの楽しい扇子）（8～9月の土日祝、夏休み期間開館日毎日）
 - ・羊毛でスイーツマグネットをつくろう（10～11月の土日祝）
 - ・しめ縄づくり（12月1日～16日の開館日毎日）
 - ・未来来る（ミラクル）カード（1月5日～17日の開館日毎日、1月23日～2月11日の土日祝）
 - ・羊毛でプチマフラーをつくろう（2月13日～3月の土日祝）

【教育普及事業に関わる予算計上】

- 【拡充】北海道博物館事業費（展示解説）〔5,054千円〕
- 北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）〔406千円〕
- 【新規】地域文化発信事業費（北海道博物館特別展）〔265千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- 文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣〔都度実施〕
- 解説員研修の実施〔都度実施〕
- 令和元年度に実施した研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」（主催：北のミュージアム活性化実行委員会）において得られた知見と技術を博物館内で共有
- 「博物館教育プログラム研修会」の実施〔年間 1 回、8 月、対象：学校教員等〕
 - ※「博物館教育プログラム研修会」：博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する研修会。平成 29 年度より継続実施。
- ※「北のミュージアム活性化実行委員会」の詳細は「11 博物館ネットワーク」を参照。

7 道民参加型組織の整備

- 【重点／新規】「ちゃれんが古文書クラブ」の創設・運営〔月 1 回、年間 12 回〕
 - ※「ちゃれんが古文書クラブ」：当館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により読み進めていく参加型の古文書学習サークル。できあがった古文書の翻刻文は、研究紀要などに「資料紹介」として掲載し、調査研究活動の普及・公開を図る。
- 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）」（再掲）への市民参加
- 来館者参加型展示コーナー（再掲）の運営
 - ・アイヌ文化 Q & A（総合展示室第 2 テーマ）
 - ・総合展示 2 階出口付近の参加型展示
- 第 4 テーマ「今とこれからをつくる」（再掲）の運営
- 休憩ラウンジにおける道民参加型展示の実施（再掲）の運営
- 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）
- ボランティアによる図書室の閲覧対応、季節に応じた配架工夫、蔵書整理
- ▲【重点】さらなる博物館活動への道民参加促進に向けた企画・立案
- ▲【重点】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー）の整備に向けた検討・取組
- ▲【重点／新規】地域住民の北海道博物館に対する理解促進と愛着醸成、および各種支援・協力による博物館活動の活性化に向けた施策の検討・取組

8 施設及び周辺環境の整備

（1）館内施設の整備と活用

- 屋上スカイビューの特別開放を実施
 - 〔4 月 29 日～9 月 22 日までの祝日・振替休日、10:00～16:00、年間 10 回〕
- 令和元年度に視覚障がい者を含む利便性向上を目的として整備した階段の段差識別シートおよびトイレ誘導看板の運用・検証
- 第 6 回特別展「恐竜展 2020」等に連動したオリジナルグッズの開発

- 老朽化した設備の補修・取替
- △総合展示室その他館内における案内板等のユニバーサルカラー化等、視覚障がいに対応した博物館づくりに向けた検討・取組
- △記念ホールおよびグランドホールの一層の活用に向けた検討・取組

（２）周辺環境の整備

- 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修
- △JR 北海道、JR 北海道バス、指定管理者等と連携し、特にインバウンドを対象としたアクセス向上に向けた検討・取組
- △【新規】平成 30 年度の台風被害や令和元年度のヒグマ出没等をふまえ、野幌森林公園の健全性と安全性の確保に向けた検討・取組
- △サインの統一化に向けた検討・取組
- △野外展示の具体化に向けた検討・取組

（３）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- △【新規】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる具体的取組の検討

※「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」：道立自然公園野幌森林公園内にある北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔等の今後のあり方について、北海道環境生活部が平成 30（2018）年 12 月に策定。施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生をめざすとする。

【施設及び周辺環境の整備に関わる会議】

- ★「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する懇談会での議論を踏まえた具体的取組の検討〔令和 2 年 3 月から 3 回程度、主催：環境生活部文化振興課〕

※「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する懇談会；「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向け、エリア全体に係る具体的な活用イメージをとりまとめるために、令和 2 年 3 月 13 日に設置された懇談会。

- ★「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上〔年間 12 回程度〕

※「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」：北海道立総合博物館の管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上を図ることを目的とした会議（構成：北海道博物館、指定管理者）。

- ★道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会を活用し、野幌森林公園の保護と利用の促進〔年間 1 回〕

※「道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会」：道立自然公園野幌森林公園の関係機関相互の情報交換や連絡調整を図り地域内の合意形成を行うとともに、道立自然公園における保護と利用促進に必要な施策を実施することで、実情に応じた保護・利用形態を創出することを目的として、平成 13（2001）年 4 年 6 日に設置された協議会（構成：石狩森林管理署ほか。事務局：北海道博物館）。

- ★野幌森林公園林野火災予防消防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防〔年間 1 回〕

※「道野幌森林公園林野火災予防消防対策会議」：野幌森林公園における林野火災の予防及び消火に万全を期するため、関係機関との連絡調整をはじめ、公園区域内のパトロールや林野火災予防のための普及啓発活動を実施することを目的に設置された会議（構成：野幌森林愛護組合ほか。事務局：北海道博物館）。

【施設及び周辺環境の整備に関わる予算計上】

□野幌森林公園管理費 [3,986 千円]

□野幌森林公園施設整備費 [9,000 千円]

□北海道博物館管理運営費

[343,098 千円、指定管理負担金（博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、森林公園含む）]

9 広報

（１）広報活動の強化

○報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、その他）[掲載・報道見込：年間延べ 400 件程度]

- ・各媒体からの照会に伴う広報の継続
- ・戦略的に働きかけていく広報体制を強化

○職員全員の専門性を活かした広報活動（協力、寄稿、出演等）[年間延べ 100 件程度]

- ・各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（寄稿、出演を含む）
- ・招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動

○広報誌・広報媒体の発行・配布

- ・『森のちゃれんがニュース』（年間 4 回（季刊）刊行、各回 3,500 部、配布先：道内 903 か所、道外 359 か所、北海道博物館・開拓の村パス ユーザー、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- ・『行事あんない』（年間 2 回（前期・後期）刊行、各回 20,000 部、配布先：道内 1,080 か所、道外 660 か所、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- ・特別展ポスター、チラシ（年間 1 回（恐竜展）、ポスター4,000 部、チラシ 270,000 部、配布先：道内、道外、近隣小学校等、その他）
- ・企画テーマ展ポスター、チラシ（年間 3 回（恐竜展）、ポスター150 部、チラシ 3,000 部、配布先：近隣関係施設・機関、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- ・特別イベント等のポスター、チラシ（回数・部数等：都度判断）
- ・『北海道博物館学校利用ガイド（令和 2 年度版）』（年間 1 回（4 月）刊行、3,000 部、配布先：道内の学校（小・中・高・特別支援・私立等）2,092 か所、下見セット同封 200 冊、教育プログラム研修会参加者等 200 冊、旅行会社 300 冊、その他）
- ・『平成 31 年度（令和元年度）要覧』（年間 1 回（6 月）刊行、500 部、配布先：北海道内の博物館・美術館・主な図書館 250 か所、視察対応用 50 冊、その他）

○愛称やロゴマークの積極的活用

△【新規】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討・取組

△海外に向けた情報発信の強化に向けた検討・取組

△修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組

（２）他機関との連携による広報活動の強化

○他機関との連携による広報活動の実施

- ・かるちやる net による連携事業の実施
- ・CISE ネットワークによる連携事業の実施
- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施

- ・サイエンスパークへの出展
- ・教員のための博物館の日 in 札幌への出展
- ※それぞれのネットワークおよび事業の詳細は「11 博物館ネットワーク」を参照。
- △【新規】赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎、改修工事中）のリニューアル事業と連動した北海道博物館のPR

【広報に関わる予算計上】

- 北海道博物館事業費（広報サービス事業費）[663 千円]

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- 「北海道立総合博物館協議会」による重要事項の調査審議
 - ・「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回、7月頃および2月頃）
 - ・「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回、8月頃）
- ※「北海道立総合博物館協議会」：知事の附属機関として平成27年度より設置された協議会。知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議するとともに、知事に意見を述べるができる。
- ※「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」：北海道立総合博物館協議会から付託された事項について調査審議するため、平成27年度より設置された専門部会。アイヌ民族文化研究センターの運営および中期目標・計画と年度計画におけるアイヌ民族文化関連項目に関する調査審議を行う。
- 「北海道博物館内部評価委員会」による令和元年度事業の内部評価
 - ・「北海道博物館内部評価委員会」の開催（年間1回、6月頃）
- ※「北海道博物館内部評価委員会」：博物館の年度事業の内部評価を実施して内部評価報告書を作成し、北海道立総合博物館協議会に報告するため、平成27年度より設置された委員会。毎年度開催。
- ×「北海道立総合博物館協議会」による外部評価
 - ※実施要領において、博物館の中期目標・計画期間の中間年度及び終了年度に行うと定められていることから、令和2年度は実施しない。
- オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施
 - ・特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析
 - ・利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施）
 - ・解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
 - ・図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
 - ・アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
 - ・指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
 - ・口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）
 - ・【新規】出口調査・追跡調査の実施
- 「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、内部評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年間計画の作成
- △公聴の実施方法についての検討・取組
- △評価のあり方についての検討・取組

△協議会の進め方についての検討・取組

【評価制度の活用と利用者ニーズの把握に関わる予算計上】

□総務管理諸費（各種審議会経費：北海道立総合博物館協議会）[416 千円]

1 1 博物館ネットワーク

（１）各種博物館団体との連携

○日本博物館協会との連携

- ・北海道支部長館として協会および支部会員との連絡・協力体制の維持（2018 年 9 月 10 日現在、北海道支部団体会員 38 件）
- ・参与会、支部長会、全国館長会議への出席
- ・全国博物館大会への出席
- ・その他、協会への入退会、博物館功労者顕彰、『博物館研究』への寄稿等に関する支部調整

○全国歴史民俗系博物館協議会との連携

- ・北海道ブロック幹事館として協議会およびブロック会員との連絡・協力体制の維持（2018 年 3 月 29 日現在、北海道ブロック団体会員 56 件）
- ・幹事館会、年次集会への出席

○北海道博物館協会との連携

- ・北海道の中核的博物館として北海道博物館協会と連携した事業の展開
- ・役員会、北海道博物館大会、ミュージアム・マネージメント研修会、学芸職員部会、北海道青少年科学館連絡協議会、北海道美術館学芸員研究協議会、道央地区博物館等施設連絡協議会の各種事業等への協力、出席

○北海道博物館協会事務局館としての庶務

- ・北海道博物館協会事務局館として役員、各ブロック、会員との連絡体制の維持（2019 年 7 月 1 日現在、団体会員 124 件）
- ・役員会（年間 3 回）、北海道博物館大会（年間 1 回、6 月 30 日～7 月 1 日、士別市）、ミュージアム・マネージメント研修会（年間 1 回）、北海道博物館協会表彰の実施に関する庶務
- ・北海道博物館協会のあり方検討に関する庶務
- ・北海道胆振東部地震による被災資料への対応に関する庶務

（２）博物館交流の促進

○北のミュージアム活性化実行委員会の事業の実施

- ・視覚障がい者の博物館利用促進を目的として令和元年度に実施した各種事業（①さわれる博物館キットの開発、②視覚支援学校におけるアウトリーチ活動、③研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」の報告をまとめ、得られた知見を道内博物館等施設と共有
- ・実行委員会のあり方検討ならびに中期計画等の検討・作成
- ・令和 3 年度文化芸術振興費補助金への申請検討（令和 2 年度は申請見送り）

※「北のミュージアム活性化実行委員会」：野幌森林公園内各施設の堅固なネットワークづくりを基盤に、北海道の中核的な文化拠点として、道内博物館等施設全体の水準の向上や活力の強化、および地域の振興に寄与することを目的として平成 26 年 1 月に組織された実行委員会。事務局を北海道博物館内に置く。文化芸術振興費補助金等の外部資金を獲得し、北海道博物館協会等との協力も得ながら、各種の連携事業を実施してきた。

○周辺施設とのネットワーク事業

- ・かるちやる net による連携事業の実施（スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など）

※「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）：札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として平成 22（2010）年 2 月に発足した協議会（参加施設：札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館）。各施設の広報・PR 活動や体験イベントなどを共同で開催している。

- ・CISE ネットワークによる連携事業の実施（CISE サイエンス・フェスティバルなど）

※「CISE ネットワーク」：北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワーク。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を実施。当館は平成 27 年度から正式参画。

- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施（いきものつながりクイズラリーなど）

※「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」：札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワーク。当館は平成 27 年度から参画。

○外部イベントへの参画

- ・サイエンスパーク（主催：北海道、道総研）への出展
- ・教員のための博物館の日 in 札幌（主催：国立科学博物館等）への出展
- ・地質の日記念展「北海道の地震」（主催：北海道大学総合博物館等）への協力

●▲【新規】ウボボイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化

- ・アイヌ文化展示を有する博物館への誘客促進につながる事業の実施
- ・今後の連携・協働・役割分担についての協議およびその計画作成

【博物館ネットワークに関わる予算計上】

□総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[60 千円]

□総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）[15 千円]

□【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業

[12,969 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き]

1 2 情報発信

（1）情報発信機能の強化

○情報システムの更新による北海道博物館の資料情報の管理・発信

- ・資料情報の一元管理
- ・データの安全な保存
- ・情報セキュリティ対策の実施
- ・情報へのアクセス機能の向上

○ウェブサイトの利便性向上（システムを更新）による情報発信の強化[年間アクセス件数見込、約 260,000 件]

○ソーシャルメディア（ツイッター）を活用した情報発信[年度末時フォロワー数見込、約 3,500 件]

△情報システムを活用した関係機関とのネットワーク構築に向けての検討・取組

（２）道民の「知りたい」気持ちへの支援

○図書室の充実〔年間利用者見込 3,500 人程度（うち図書室のみの利用者 35 人程度）、年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度〕

- ・北海道の自然・歴史・文化についての道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入
- ・北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入
- ・図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備
- ・企画展示および総合展示の深めるための図書の展示を充実

○レファレンス機能の強化〔年間見込 560 件程度〕

- ・さまざまな機関、個人からの問い合わせに対し、北海道博物館の専門性と博物館ネットワークの総力をあげ真摯に対応

写真提供〔年間見込 120 件程度〕

レファレンス〔年間見込 420 件程度〕

アンケートへの協力、その他〔年間見込 20 件程度〕

△【新規】レファレンス数の拡充に向けた広報の検討・取組

△多様な方法による多様な分野に関わる問い合わせに対し、利用者にストレスを与えないスムーズな受け答えを可能にするための対応策を検討

【情報発信に関わる予算】

□【拡充】文化振興事業費（北海道博物館事業費：情報システム整備費）〔7,642 千円〕

□北海道博物館試験研究費（情報集積推進事業）〔図書購入 680 千円〕（再掲）

1 3 人材育成機能の強化

（１）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

○博物館実習生の受入れ〔年間 1 回（2 週間）、20 人上限〕

○見学実習の受入れ〔年間見込 7 件（各 1 日程度）、延べ 100 人程度〕

○インターンシップの受入れ〔年間見込 7 件（各 1 日程度）、延べ 30 人程度〕

○大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣

（２）外来研究員の受入

△外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備

（３）当館職員の資質向上

○文化庁、日本博物館協会、北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施される博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加〔年間見込 10 件、延べ 20 人程度〕

1 4 研究成果の発信と社会貢献

（１）学術刊行物などの刊行

○『北海道博物館研究紀要』第 6 号の刊行（3 月刊行、900 部、配布先：道内博物館、道内図

書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他)

- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号の刊行(3月刊行、900部、配布先:道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他)

- 第6回特別展「恐竜展 2020」展示図録の刊行(6月刊行、部数:検討中)

- 企画テーマ展解説パンフレットの刊行[年間3回]

- ・第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考えるー北海道博物館資料+枡谷隆男氏コレクション」(4月刊行、3,000部、配布先:来館者、その他)
- ・第18回企画テーマ展「お葬式(仮題)」(10月刊行、3,000部、配布先:来館者、その他)
- ・第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫(仮題)」(2月刊行、3,000部、配布先:来館者、その他)

- アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するためのアイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』(全1~10巻)の増刷・配布[都度実施]

- ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」を活用し、『北海道博物館研究紀要』ならびに『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保証[『研究紀要』編集委員会:年間5回程度、『センター研究紀要』編集委員会:年間5回程度]

(2) 学会への発信

- 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆[年間35件程度]

- 学会、研究会等での発表[年間20件程度]

(3) 職員の対外貢献

- 招待講演(講座・講演会)等への職員派遣[年間60件程度]

- 各種委員等[年間70件程度]

- ・各種委員等(年間30件程度)
- ・非常勤講師(年間10件程度)
- ・学術的な協力(指導助言等)(年間30件程度)

(4) 外部機関との事業連携

- 他機関等との連携・協力[年間22件程度]

- ・市民・他団体との連携(年間10件程度)
- ・学会および研究会との交流(年間2件程度)
- ・国・都道府県・市町村等との連携(年間5件程度)
- ・外部団体等の研修への協力(年間5件程度)

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- 「北海道総合計画」(平成28年度~令和7年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・公表を推進

- アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する研究の推進

- ▲【重点/新規】樺太記憶継承事業の展開計画の作成

- ▲【重点/新規】北海道開拓記念館開館50年(2021年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(2021年)、北海道開拓の村開村40年(2023年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(2024年)を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

(1) 資料の収集・整理・公開

○資料収集と整備

- ・未整理資料の整理・データ登録・配架
- ・平成28年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理

○収蔵資料の公開

- ・資料閲覧への対応（年間25件程度）
- ・公開資料の作成（諸手続含む）（年間3点程度）
- ・公開資料の作成計画の策定

(2) 展示

○総合展示室第2テーマにおける展示資料の入替え〔年間延べ6点程度〕（再掲）

- ・衣服（4回）、装身具・祭具等（1回）、筆録ノート等（1回）の入替え
- ・iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新
- ・入替え計画の作成

○クローズアップ展示コーナーの更新〔年間延べ6回〕（再掲）

- ・クローズアップ展示3（第2テーマ）〔年間3回〕
「伝承者が生きた近現代 平賀さだもさん」
「祈りの造形—狐神の舟」
「キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料」
- ・クローズアップ展示4（第2テーマ）〔年間3回〕
「灰場武雄さんがつくったトンコリ（五弦琴）」
「新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち」
「渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化」

○来館者参加型展示コーナーの入替え〔年間延べ3回程度〕（再掲）

- ・アイヌ文化Q&A（第2テーマ）（年間3回（質問数延べ6件）程度）

○企画テーマ展の開催〔年間3回〕（再掲）

- ・第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える—北海道博物館資料＋柘谷隆男氏コレクション—」 開催期間：4月25日(土)～5月24日(日) 会場：特別展示室
- ・第18回企画テーマ展「お葬式」（仮題）
開催期間：10月24日(土)～12月13日(日) 会場：特別展示室
- ・第19回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」（仮題）
開催期間：2月6日(土)～4月4日(日) 会場：特別展示室

○アイヌ文化巡回展の開催〔年間1回〕（再掲）

開催期間：令和2年7月～11月頃 会場：木田金次郎美術館

△総合展示室第2テーマ、クローズアップ展示コーナー、来館者参加型展示コーナーの入替え計画の検討・作成（他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討）

△企画展等の中期計画の検討・作成（他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力）

(3) 調査研究

○アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト〔道費による研究：2課題〕（再掲）

- ・北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実施

(新規：令和 2～6 年度)

<個別課題>

「北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）

「北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）

「キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）

- ・アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（新規：令和 2～6 年度）

<個別課題>

「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（仮題）」（継続：平成 28～令和 2 年度）

「アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究（仮題）」（新規：令和 2～4 年度）

「北方文化圏の中のアイヌ音楽（仮題）」（継続：平成 29～令和 4 年度）

「1945 年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度）

「近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～5 年度）

○北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施〔道費による研究：2 課題〕（再掲）

- ・北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度）

※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流

※令和 2 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘

- ・寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度）

※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流

※令和 2 年度は、アルバータから研究者を招聘

○【新規】収集した樺連資料に関する調査研究〔道費による研究〕（再掲）

○科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施

〔競争的外部資金による研究：2 課題〕（再掲）

- ・アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度）

- ・考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究（若手）（継続：平成 30～令和 3 年度）

※令和 2 年度以降の新規課題については、3 件申請中。

△これまでの調査研究の成果を踏まえた事業展開の検討

△総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる外部資金の獲得にむけた検討・取組

（４）教育普及事業

○学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施〔年間 40 件程度〕（再掲）

○はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施〔年間 140 クラス程度〕（再掲）

○諸行事の実施〔年間 16 件 19 回〕（再掲）

- ・子どもワークショップ（2 件 2 回）
- ・ちゃれんがワークショップ（2 件 3 回）
- ・講演会（外部講師による講演）（2 件 2 回）
- ・ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座）（7 件 7 回）

- ・アイヌ語講座（1 件 3 回）
- ・特別イベント（2 件 2 回）

（５）博物館ネットワーク

- ▲【重点／新規】ウポバイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化（再掲）
 - ・アイヌ文化展示を有する博物館への誘客促進につながる事業の実施
 - ・今後の連携・協働・役割分担についての協議およびその計画作成

（６）情報発信

○学術情報の集約

- ・アイヌ民族文化研究センターの収蔵資料データ、調査データ、研究成果の集約
- ・北海道においてこれまでに実施されてきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議、およびデータ提供に向けた体制整備

○ホームページによる情報提供

- ・北海道博物館ホームページにアイヌ民族文化研究センターからの情報発信ページを設け、発信基盤を整備
- ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の運用

※「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」；旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進め、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。現在は北海道博物館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し視聴できるようになっている。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けている。

- ・アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するためのアイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全 1～10 巻）を掲載
 - ・新たに学習のための情報を随時掲載していくなど、情報の追加や更新をしていくための枠組みの策定、体制の整備
- ### ○図書の購入（再掲）
- ・アイヌ民族の歴史や文化についての道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入
 - ・北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入
- ### ○リファレンス機能の強化〔年間見込 100 件程度〕（再掲）
- ・さまざまな機関、個人からの問い合わせに対し、北海道博物館の専門性の総力をあげ真摯に対応

△調査研究課題の成果を反映させる展示会等の情報発信計画を検討

（７）人材育成

○学習・伝承活動の支援

- ・市町村やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられるアイヌ文化の学習や伝承活動に関する依頼に対し、専門的見地から助言・支援

（８）研究成果の発信と社会貢献

1) 学術刊行物などの刊行

- 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 6 号の刊行（3 月刊行、900 部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他）（再掲）

- アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全 1～10 巻）の増刷・配布〔都度実施〕（再掲）
- 広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信（年間 4 回（季刊）刊行）
- ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」を活用し、『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保証〔年間 5 回程度〕（再掲）

2) 学会への発信

- 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆〔年間 7 件程度〕
- 学会、研究会等での発表〔年間 4 件程度〕

3) 職員の対外貢献

- 招待講演（講座・講演会）等への職員派遣〔年間 12 件程度〕
- 各種委員等〔年間 14 件程度〕
 - ・各種委員等
 - ・非常勤講師
 - ・学術的な協力（指導助言等）

4) 外部機関との事業連携

- 他機関等との連携・協力〔年間 4 件程度〕
 - ・市民・他団体との連携
 - ・学会および研究会との交流
 - ・国・都道府県・市町村等との連携
 - ・外部団体等の研修への協力

5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- アイヌ民族の歴史や文化を踏まえた持続可能な共生社会を模索する研究の推進
- 【重点／新規】樺太記憶継承事業への参画
- ▲【重点／新規】北海道立アイヌ民族文化研究センター開所 30 年（2024 年）を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組

【アイヌ民族文化研究センターの事業に関する会議】

- ★センター職員会議の定例開催により、事業を円滑に管理・実施

【アイヌ民族文化研究センターの事業に関わる予算計上】

- 北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター分）〔3,288 千円〕
- 【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業〔12,969 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕（再掲）

【別紙】 ガバナンス体制の確立

（１）博物館内の意思決定体制

○最終意思決定機関としての運営会議の実施

- ・ 構成員：館長（議長）、副館長、部長、各グループ主幹、総務部総括グループ統括主査

○アイヌ民族研究センターの意思決定体制

- ・ センター職員による会議を定例（都度）実施 ⇔ 運営会議

（２）博物館内の目標・業務管理体制

○目標管理体制

- ・ 各種会議等 ⇔ 事務局グループ（←部長の管理・監督） ⇔ 運営会議
- ・ 職員個々の目標設定とその管理
- ・ 職員全体会議の実施（都度実施）
- ・ 内部評価・外部評価を活用した PDCA サイクルによる目標管理

○業務管理体制

- ・ 館長 ⇔ 副館長 ⇔ 部長 ⇔ グループ主幹 ⇔ 主査 ⇔ 係（業務ライン）
- ・ 朝の全体ミーティング（開館日毎日）による 1 日ごとの業務管理

（２）道庁と博物館との連携

○道庁（窓口：文化振興課）と博物館の連携

※道庁と博物館の連携構造

- ・ 道庁→博物館（関係部局からの情報の提供、政策に基づく事業提案、各種照会、視察対応）
- ・ 博物館→道庁（事業提案、予算要求、事業報告、各種協力要請）

↓

- ・ 博物館⇔道庁（上記の各種案件に関わる情報共有・協議・課題解決・事業実施）

平成 31 年度年度計画	令和 2 年度年度計画
	○ 実施事項 ● 重点項目に関する実施事項 △ 検討・計画作成・実施に向けた取組 ▲ 重点項目に関する検討・計画作成・実施に向けた取組 × 今年度実施しない事項 ★ 実施を円滑に管理・進行させるための会議・ワーキング組織 ※ 注記 □ 関連する予算計上
1 資料の収集・保存 （1）資料の収集 ・ 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・ 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 ・ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 ・ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵資料の受入・登録に係る書類についてデータ整理のあり方を整備し、事務手続きの効率化を図る。 【判断数値】 ・ 資料審査会の実施回数（12 回） ・ 受入資料件数（300 件） （2）収蔵機能の強化 ・ 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ・ 災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。 ・ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 （3）資料保存環境の維持 ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 【判断数値】 ・ 資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数（12 回） ・ IPM に関わる作業の実施回数（400 回） （4）収蔵資料の利用への対応 ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。 【判断数値】 ・ 特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数（50 件） ・ 模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数（130 件） ・ 資料貸出資料件数（20 件）	1 資料の収集・保存 （1）資料の収集 ○北海道博物館資料収集基本方針に基づく収集活動を継続的に実施〔年間資料情報件数見込 60 件程度、年間調査収集件数見込約 25 件程度〕 ●【重点／新規】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受入予定の樺太関係資料（以下「樺連資料」）約 8,000 点を収集 ※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料（約 8,000 点）を適切に収蔵、アーカイブ化するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和 2～16 年度までの 15 年計画で実施。 △【新規】『北海道博物館資料目録』の刊行計画の作成 （2）収蔵機能の強化 ○収蔵資料データベースの適切かつ安全な運用・更新 ○【新規】収集した樺連資料のアーカイブ化 △収蔵スペースの確保に向けた検討・取組 △災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討・取組 （3）資料保存環境の維持 ○適切な資料保存環境の維持に向けた取組 ・ 捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）〔年間 12 回程度〕 ・ 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査〔年間 1 回程度〕 ・ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査〔年間 3 回程度〕 ・ 担当職員による収蔵庫清掃〔年間 12 回程度〕 ・ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除〔年間 1 回程度〕 ・ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業〔都度実施〕 ・ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理〔年間 12 回程度〕 ・ 収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）〔恒常の実施〕 ・ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）〔都度実施〕 ○文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の更新〔令和 2 年 8 月〕 （4）収蔵資料の利用への対応 ○資料の貸出への対応〔年間見込 25 件 500 点程度〕 ○資料の特別観覧への対応〔年間見込 70 件 1,000 点程度〕 ○資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）〔年間見込 120 件 300 点程度〕 ○資料の模写品等使用への対応（開拓の村）〔年間見込 40 件 150 点程度〕 【資料の収集・保存に関わる会議】 ★「北海道博物館資料審査会」を活用し、館資料の収集、保存、活用について適切に管理〔年間 12 回程度〕 ★「資料収蔵環境管理等に関する連絡会議」を活用し、円滑に資料保存環境を維持〔年間 12 回程度〕 【資料の収集・保存に関わる予算計上】 □【新規】樺太記憶継承事業〔資料の保管 2,973 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）〕 □北海道博物館事業費（資料保存管理）〔495 千円〕

2 展示

(1) 総合展示室の運営

<

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

・ iPad を利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新を実施する。 【判断数値】 ① クローズアップ展示（クローズアップ展示 3、4 とも、 各 3 回） ② アイヌ文化 Q&A（更新年間 3 回（質問 6 件）） ③ 総合展示資料入れ替え（衣服及び関連資料 4 回、装身具・祭具等 1 回、ノート等 1 回） イ 企画展示の開催 ・ 平成 31 年度の第 14 回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力をはかる。 ・ 平成 31 年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。 ・ 平成 32 年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。 ウ 巡回展の開催 ・ 平成 31 年度の巡回展を開催するとともに、平成 32 年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成 30 年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。 【判断数値】 ・ 第 14 回企画テーマ展の来場者数（7000 人） ・ 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96％）	・ 第 19 回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」（仮題） 開催期間：2 月 6 日(土)～4 月 4 日(日) 会場：特別展示室 ○アイヌ文化巡回展の開催【年間 1 回】 開催期間：令和 2 年 7 月～11 月頃 会場：木田金次郎美術館 【展示に関わる会議】 ★「北海道博物館展示ワーキングチーム」を活用し、総合展示および企画展示等の事業を円滑に実施【年間 8 回程度】 ★企画展実施チームによる会議を活用し、企画展の事業を円滑に管理・実施【都度招集・開催】 【展示に関わる予算計上】 □北海道博物館事業費（総合展示）[591 千円] □北海道博物館事業費（テーマ展）[805 千円] □北海道博物館事業費（展示会等に必要な機器借上）[183 千円] □【新規】樺太記憶継承事業【資料活用 3,235 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）】 □【新規】地域文化発信事業費（北海道博物館特別展）[24,846 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き]
3 調査研究 （1）調査研究の推進 ・ 新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト 5 課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト 3 課題を実施する。最終年度となる 2 課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。 ・ 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。 ・ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。5 ヶ年の最終年にあたるサハリン州郷土博物館との共同研究については、成果をとりまとめ、報告書を刊行する。 ・ 月 1 回の定例研究報告会を継続して実施する。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。 ・ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。 ・ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。 （2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】 ア 調査研究事業 ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の 2 つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。 ・ 平成 30 年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。 【判断数値】 ・ 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 ① アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題 4 件） ② アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題 4 件） ③ 海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題 2 件） 成果発表の目標値＝①②③併せて計 4 件 ・ 科研等の補助金件数（4 件）	3 調査研究 ○道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施【道費による研究：5 課題】 ・ 野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）（継続：令和元～5 年度） ・ 北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用（継続：平成 30～令和 4 年度） ・ 北海道及びサハリン（樺太）の「風景」に関する基礎的研究（継続：令和元～4 年度） ・ 北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査（新規：令和 2～6 年度） ・ モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究（継続：平成 30～令和 4 年度） ○北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施【道費による研究：4 課題】 ・ 石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ（新規：令和 2～6 年度） ・ 湿地の生物多様性と地域の歴史・文化についての研究（新規：令和 2 年度） ・ 北方四島の考古・歴史学的総合研究（継続：令和元～4 年度） ・ 北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究（継続：令和元～5 年度） ○アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト【道費による研究：2 課題】 ・ 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） ・ アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（仮題）」（継続：平成 28～令和 2 年度） 「アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究（仮題）」（新規：令和 2～4 年度） 「北方文化圏の中のアイヌ音楽（仮題）」（継続：平成 29～令和 4 年度） 「1945 年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和～5 年度） ○北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施【道費による研究：2 課題】 ・ 北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度） ※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘 ・ 寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度） ※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、アルバータから研究者を招聘 ●【重点／新規】収集した樺連資料に関する調査研究【道費による研究】

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

イ 資料収集と整備 ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。 ・ 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。 ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。 【判断数値】 ・ 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）（2 資料群） ・ 収集する資料の件数（2 件） ・ 資料の所在調査等の実施件数（10 件） ウ 資料公開 ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。 ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。 【判断数値】 ・ 公開する資料件数（5 件） ・ 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20 件）	○科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：12 課題〕 ・ 北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究（基盤 B）（継続：平成 30～令和 3 年度） ・ 巨大噴火・津波の痕跡を軸とした 17 世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究（基盤 B）（継続：令和元～令和 4 年度） ・ 蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究（基盤 C）（継続：平成 28～令和 2 年度） ・ 北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究（基盤 C）（継続：平成 28～令和 2 年度） ・ 北海道地方で特徴的かつ広域的に拡がった季節行事の生成と波及に関する研究（基盤 C）（継続：平成 29～令和 3 年度） ・ 少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度） ・ アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度） ・ リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源摂取における空間利用の解析（基盤 C）（継続：令和元～4 年度） ・ 考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究（若手）（継続：平成 30～令和 3 年度） ・ 貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発（若手）（継続：平成 30～令和 4 年度） ・ 明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究（若手）（継続：令和元～令和 3 年度） ・ 地理情報システムを用いた、北海道に現存する船絵馬の保存と活用に向けた試み（研究活動スタート支援）（継続：令和元～2 年度） ※令和 2 年度以降の新規課題については、11 件申請中。 ○科学研究費による研究（当館職員が研究分担者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：5 課題〕 ・ 狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究（基盤 B）（継続：平成 30～令和 2 年度） ・ 官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質（基盤 B）（継続：平成 30～令和 3 年度） ・ 古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築（基盤 B）（継続：令和元～令和 4 年度） ・ 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築（基盤 B）（継続：令和元～令和 5 年度） ・ 自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索（挑戦的研究（萌芽））（継続：令和元～令和 3 年度） ※令和 2 年度以降の新規課題については、3 件申請中。 ○科学研究費以外の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔競争的外部資金による研究：1 課題〕 ・ 博物館と地域の連携による鳥類標本データベース構築－未利用個体の活用に向けたモデルづくり－（笹川科学研究助成）（新規：令和 2～3 年度） ※令和 2 年度以降の新規課題については、1 件申請中。 ○定例研究報告会の実施〔年間 12 回〕 ※「定例研究報告会」：館学芸賞・研究職員・司書の研究レベルの向上に資することを目的に、道費による研究や個人研究の成果、外部資金による研究の成果などについて発表し、知見を共有する場とする報告会。平成 27 年度より、月 1 回定例的に継続実施。 【調査研究に関わる会議】 ★「北海道博物館調査研究ワーキングチーム」を活用し、調査研究事業を円滑に実施 〔年間 6 回程度〕 【調査研究に関わる予算計上】 □【新規】樺太記憶継承事業〔調査研究 300 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）〕 □北海道博物館試験研究費（外部資金活用研究費・一般研究費）[8,360 千円] □北海道博物館試験研究費（情報集積推進事業）[7,370 千円]
4 北海道開拓の村の整備 ・ 北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物（旧武井商店酒造部、旧三ツ河本そば屋）補修工事を実施する（建設部）。 ・ 北海道胆振東部地震で被害を受けた旧開拓使工業局庁舎などの歴史的建造物の改修工事を実施する。 ・ 歴史的技術及び文化財補修法等に関する協議を建設部と行う。 ・ 平成 32 年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 ・ 北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 ・ 北海道大学恵迪寮同窓会による札幌農学校寄宿舎（恵迪寮）北寮展示改修事業に協力する。	4 北海道開拓の村の整備 ○旧近藤染舗の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館） ○旧小樽新聞社の実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館） ○旧樋口家農家住宅の老朽度調査 ○旧岩間家農家住宅の老朽度調査 ○令和元年 6 月の落雷により故障した火災報知設備等の修繕実施設計〔延べ 31 か所、発注：建設部、指導・助言：博物館〕 ○スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室の多言語解説サービス運用・検証・改善〔6 カ国語、110 コンテンツ〕 △開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計 52 棟＋インフラ） △開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計 52 棟） △【新規】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる具体的取組の検討 ※補修工事の流れ：補修計画→老朽度調査（耐震診断）→実施設計→補修工事 ※平成 30 年度より、予算計上ならびに実施設計、補修工事の発注・施工は建設部に移管 【北海道開拓の村の整備に関わる予算計上】 □文化振興事業費（開拓の村費（旧開拓の村・百年記念塔費））[2,002 千円] □【新規】文化振興事業費（開拓の村火災等発生対策費）[10,776 千円、時限付き]
5 教育普及事業 （1）子ども向けの魅力あるイベントの充実 ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室	5 教育普及事業 （1）魅力あるイベントの充実 ○「情報デスク」を活用した交流・誘導〔常時〕

内で展示解説を実施する。

子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。

調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。

「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。

「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施するとともに、同目的の行事について、より多様な展開を検討する。

利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。

展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成31年度）
イベント参加者数	12,000人

（参考：中期目標値 実績数：平成27年4月～平成31年3月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成27年4月～平成31年3月）			
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
イベント参加者数	16,000人	54,603人			
		8,495人	12,708人	16,058人	17,342人

【判断数値】

・ ちゃれんが子どもクラブの実施件数／参加者数（13件／550人）

・ グループレクチャー実施件数／参加者数（中学生以下／全体）（120件／7,300人（うち中学生以下 70件／4,200人））

・ はっけんプログラム実施件数／参加者数（220件／7,000人）

（2）教材の充実

「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について検討する。

より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。

学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材の開発について検討する。

昨年度開発・公開した学校団体向けワークシートについて検証し、改善点を改善する。

ちゃれんがラリーの開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが概ね実現したなかで、障がい者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を検討する。

特に、昨年度から取り組みはじめた視覚障がい者にとって利用しやすくなるための博物館づくりに向け、より具体的な施策、教材開発を進めていく。

（3）はっけん広場の運営

北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。

はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のらなる充実化にむけた取組を継続して行なう。

はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。

子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。

北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。

館外への貸出し用の「はっけんキット」を整備するとともに、貸出制度を確立した後、貸出しを促進するための取組を進める。

引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取り組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。

はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。

○解説員による総合展示の展示解説〔常時〕

○【縮小】総合展示室における「ハイライトツアー」の実施〔5～9月の毎日、4月および10～3月の土日祝、14:00～15:00〕

○情報デスクを活用した「学芸員ハローデスク」の実施〔祝日・振替休日〕

○総合展示室や特別展示室における「ミュージアムトーク」の実施〔一部の祝日・振替休日〕

○総合展示室における「ハンズオン」の実施〔一部の祝日・振替休日〕

○総合展示室およびはっけん広場における子供向け「ちゃれんがラリー」の実施〔常時〕

○諸行事の実施〔年間48件63回〕

・ 自然観察会（4件4回）

・ 子どもワークショップ（11件11回）

・ ちゃれんがワークショップ（8件11回）

・ 講演会（外部講師による講演）（8件8回）

・ ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座）（11件11回）

・ 古文書講座（1件10回）

・ アイヌ語講座（1件3回）

・ 特別イベント（4件5回）

（2）社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

○学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施〔10メニュー、年間150件7,000人参加見込〕

○はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施〔6メニュー、年間220クラス7,000人参加見込〕

○スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充〔現在6カ国語、374コンテンツ〕

○展示解説器（音声ガイド）を利用した総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充〔6カ国語、67コンテンツ〕

○学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充

○令和元年度に開発した視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充

○令和2年度より学校教育用補助教材の貸出を本格実施

（3）はっけん広場の運営

○「はっけんキット」の運用〔一般来館者向け、41メニュー〕

・ 生き物に関するもの（3メニュー）

・ 地学に関するもの（2メニュー）

・ アイヌ文化に関するもの（11メニュー）

・ 歴史に関するもの（3メニュー）

・ 生活文化に関するもの（22メニュー）

○「はっけんプログラム」の実施〔学校団体向け、6メニュー〕

・ ヒグマ

・ アンモナイト

・ アイヌ文化

・ 縄文文化のくらし

・ 昭和のくらし

・ はっけんキットを使ってみよう（保育園、幼稚園向け）

○「はっけんイベント」の実施〔一般来館者向け、年間7メニュー〕

・ 作ってならそう「ゲログログエル」（4～5月の土日祝）

・ めざせ横綱！恐竜紙ずもうを作ろう（6～7月の土日祝、夏休み期間開館日毎日）

・ きょうりゅう FAN FUN FAN（恐竜好きの楽しい扇子）（8～9月の土日祝、夏休み期間開館日毎日）

・ 羊毛でスイーツマグネットをつくろう（10～11月の土日祝）

・ しめ縄づくり（12月1日～16日の開館日毎日）

・ 未来来る（ミラクル）カード（1月5日～17日の開館日毎日、1月23日～2月11日の土日祝）

・ 羊毛でプチマフラーをつくろう（2月13日～3月の土日祝）

【教育普及事業に関わる予算計上】

□【拡充】北海道博物館事業費（展示解説）〔5,054千円〕

□北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）〔406千円〕

□【新規】地域文化発信事業費（北海道博物館特別展）〔265千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕

27

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。	設 定 内 容		目標値（平成 31 年度）			
	はっけん広場利用者数		20,000 人			
	（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）					
	設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）			
はっけん広場利用者数	100,000 人	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
		103,658 人				
		34,561 人	27,689 人	20,194 人	21,214 人	
【判断数値】						
- はっけん広場利用者数（20,000 人） - はっけんプログラムの実施件数（220 件） - はっけんイベント参加者数（2,700 人） - はっけんキットの貸出し件数（10 件）						
（４）アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】						
- 平成 30 年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。 - グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。						
【判断数値】						
- グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 40 件） - はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 80 件） - 上記以外に行う館内イベント件数（4 件）						

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 - 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 - 館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。 - より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。 【判断数値】 - 博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数（4 件 7 人） - 当館が実施する教員対象の研修会への参加人数 （40 人）	6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 ○文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣〔都度実施〕 ○解説員研修の実施〔都度実施〕 ○令和元年度に実施した研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」（主催：北のミュージアム活性化実行委員会）において得られた知見と技術を博物館内で共有 ○「博物館教育プログラム研修会」の実施〔年間 1 回、8 月、対象：学校教員等〕 ※「博物館教育プログラム研修会」：博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する研修会。平成 29 年度より継続実施。 ※「北のミュージアム活性化実行委員会」の詳細は「1 1 博物館ネットワーク」を参照。
7 道民参加型組織の整備 - 第 1 期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する（館長との意見交換の場）。 - 道民参加の促進に向け、北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。 - 道民参加型の展示事業を検討し、推進をはかる。	7 道民参加型組織の整備 ●【重点／新規】「ちゃれんが古文書クラブ」の創設・運営〔月 1 回、年間 12 回〕 ※「ちゃれんが古文書クラブ」：当館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により読み進めていく参加型の古文書学習サークル。できあがった古文書の翻刻文は、研究紀要などに「資料紹介」として掲載し、調査研究活動の普及・公開を図る。 ○道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）」（再掲）への市民参加 ○来館者参加型展示コーナー（再掲）の運営 ・アイヌ文化 Q & A（総合展示室第 2 テーマ） ・総合展示 2 階出口付近の参加型展示 ○第 4 テーマ「今とこれからをつくる」（再掲）の運営 ○休憩ラウンジにおける道民参加型展示の実施（再掲）の運営 ○博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施） ○ボランティアによる図書室の閲覧対応、季節に応じた配架工夫、蔵書整理 ▲【重点】さらなる博物館活動への道民参加促進に向けた企画・立案 ▲【重点】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー）の整備に向けた検討・取組 ▲【重点／新規】地域住民の北海道博物館に対する理解促進と愛着醸成、および各種支援・協力による博物館活動の活性化に向けた施策の検討・取組
8 施設及び周辺環境の整備 （１）館内施設の整備と活用 ・アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。	8 施設及び周辺環境の整備 （１）館内施設の整備と活用 ○屋上スカイビューの特別開放を実施

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

ホームページのアクセス数（トップページ）		250,000 件			
（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）					
設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ホームページの アクセス数 （トップページ）	395,000 件	950,787 件			
		270,758 件	219,491 件	200,591 件	259,947 件
【判断数値】					
・ 入館者数／うち外国人（100,000 人／うち外国人 5,200 人）					
・ 学校団体の利用者数／件数（25,000 人／350 件）					
・ 広報媒体の件数（220 件）					
・ 愛称およびロゴマークの活用件数（10 件）					
・ ホームページのアクセス数（250,000 件）					
（2）赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携					
・ イベント紹介コーナーの計画的な更新、利用者と直に接する広報活動の展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する（平成 31 年度は 10 月 1 日より改修工事で閉館となるため、9 月 30 日まで）。					
・ 10 月～12 月の間に、「北海道博物館赤れんがサテライト」の資料や物品を撤収する。					
・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながってきたのか、総括する。					
・ 「サイエンスパーク」や「かるちゃん net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。					
【判断数値】					
・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5 回）					
・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数（10 回）					
10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握					
・ 北海道立総合博物館協議会（2 回）と専門部会（1 回）などの実施と運営を行う。					
・ 第 1 期中期目標・計画期の外部評価及び平成 31 年度内部評価を実施する。					
・ アンケート調査によるオーディエンス・リサーチを実施するとともに、その他の方法によるリサーチ実施のための検討をすすめる。					
・ 第 2 期中期目標・計画策定に合わせ、評価制度の見直し検討を行う。					
利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。					
設 定 内 容		目標値（平成 31 年度）			
利用者満足度		80 パーセント			
（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）					
設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
利用者満足度	70%	90.2%（平均値）			
		85.3%	90.2%	96.1%	89.1%

・ 企画テーマ展ポスター、チラシ（年間 3 回（恐竜展）、ポスター150 部、チラシ 3,000 部、配布先：近隣関係施設・機関、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
・ 特別イベント等のポスター、チラシ（回数・部数等：都度判断）
・ 『北海道博物館学校利用ガイド（令和 2 年度版）』（年間 1 回（4 月）刊行、3,000 部、配布先：道内の学校（小・中・高・特別支援・私立等）2,092 か所、下見セット同封 200 冊、教育プログラム研修会参加者等 200 冊、旅行会社 300 冊、その他）
・ 『平成 31 年度（令和元年度）要覧』（年間 1 回（6 月）刊行、500 部、配布先：北海道内の博物館・美術館・主な図書館 250 か所、視察対応用 50 冊、その他）
○愛称やロゴマークの積極的活用
△【新規】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討・取組
△海外に向けた情報発信の強化に向けた検討・取組
△修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組
（2）他機関との連携による広報活動の強化
○他機関との連携による広報活動の実施
・ かるちゃん net による連携事業の実施
・ CISE ネットワークによる連携事業の実施
・ 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施
・ サイエンスパークへの出展
・ 教員のための博物館の日 in 札幌への出展
※それぞれのネットワークおよび事業の詳細は「1 1 博物館ネットワーク」を参照。
△【新規】赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎、改修工事中）のリニューアル事業と連動した北海道博物館の PR
【広報に関わる予算計上】
□北海道博物館事業費（広報サービス事業費）[663 千円]

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
○「北海道立総合博物館協議会」による重要事項の調査審議
・ 「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間 2 回、7 月頃および 2 月頃）
・ 「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間 1 回、8 月頃）
※「北海道立総合博物館協議会」：知事の附属機関として平成 27 年度より設置された協議会。知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議するとともに、知事に意見を述べることができる。
※「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」：北海道立総合博物館協議会から付託された事項について調査審議するため、平成 27 年度より設置された専門部会。アイヌ民族文化研究センターの運営および中期目標・計画と年度計画におけるアイヌ民族文化関連項目に関する調査審議を行う。
○「北海道博物館内部評価委員会」による令和元年度事業の内部評価
・ 「北海道博物館内部評価委員会」の開催（年間 1 回、6 月頃）
※「北海道博物館内部評価委員会」：博物館の年度事業の内部評価を実施して内部評価報告書を作成し、北海道立総合博物館協議会に報告するため、平成 27 年度より設置された委員会。毎年度開催。
×「北海道立総合博物館協議会」による外部評価
※実施要領において、博物館の中期目標・計画期間の中間年度及び終了年度に行うと定められていることから、令和 2 年度は実施しない。
○オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施
・ 特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析
・ 利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施）
・ 解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
・ 図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
・ アイヌ文化 Q & A（総合展示室第 2 テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
・ 指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）
・ 口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）
・ 【新規】出口調査・追跡調査の実施
○「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、内部評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年間計画の作成
△公聴の実施方法についての検討・取組
△評価のあり方についての検討・取組
△協議会の進め方についての検討・取組

						【評価制度の活用と利用者ニーズの把握に関わる予算計上】 □総務管理諸費（各種審議会経費：北海道立総合博物館協議会）[416 千円]					
1 1 博物館ネットワーク （1）各種博物館団体との連携											
● 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。											
● 全国歴史民俗系博物館協議会の 2018～2019 年度代表幹事館として、北海道博物館を会場に開催予定の年次集会を、同協議会事務局と連携して実施する。											
● 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。											
（2）博物館交流の促進											
● 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。											
● 北海道博物館や道内各地における、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。											
道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。											
設 定 内 容						目標値（平成 31 年度）					
道内市町村等との連携・協力件数						40 件					
（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）											
設定内容		目標値（5年間）		実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）							
				平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度				
道内市町村等との 連携・協力件数		200 件		134 件							
				38 件	36 件	30 件	30 件				
（2）博物館交流の促進											
○北のミュージアム活性化実行委員会の事業の実施											
● 視覚障がい者の博物館利用促進を目的として令和元年度に実施した各種事業（①さわれる博物館キットの開発、②視覚支援学校におけるアウトリーチ活動、③研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」の報告をまとめ、得られた知見を道内博物館等施設と共有											
● 実行委員会のあり方検討ならびに中期計画等の検討・作成											
● 令和 3 年度文化芸術振興費補助金への申請検討（令和 2 年度は申請見送り）											
※「北のミュージアム活性化実行委員会」：野幌森林公園内各施設の堅固なネットワークづくりを基盤に、北海道の中核的な文化拠点として、道内博物館等施設全体の水準の向上や活力の強化、および地域の振興に寄与することを目的として平成 26 年 1 月に組織された実行委員会。事務局を北海道博物館内に置く。文化芸術振興費補助金等の外部資金を獲得し、北海道博物館協会等との協力も得ながら、各種の連携事業を実施してきた。											
○周辺施設とのネットワーク事業											
● かるちゃん net による連携事業の実施（スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など）											
※「かるちゃん net」（文化施設連絡協議会）：札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として平成 22（2010）年 2 月に発足した協議会（参加施設：札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館）。各施設の広報・PR 活動や体験イベントなどを共同で開催している。											
● CISE ネットワークによる連携事業の実施（CISE サイエンス・フェスティバルなど）											
※「CISE ネットワーク」：北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワーク。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を実施。当館は平成 27 年度から正式参画。											
● 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施（いきものつながりクイズラリーなど）											
※「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」：札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワーク。当館は平成 27 年度から参画。											
○外部イベントへの参画											
● サイエンスパーク（主催：北海道、道総研）への出展											
● 教員のための博物館の日 in 札幌（主催：国立科学博物館等）への出展											
● 地質の日記念展「北海道の地震」（主催：北海道大学総合博物館等）への協力											
●▲【新規】ウボボイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化											
● アイヌ文化展示を有する博物館への誘客促進につながる事業の実施											
● 今後の連携・協働・役割分担についての協議およびその計画作成											
【博物館ネットワークに関わる予算計上】											
□総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[60 千円]											

	□総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）〔15 千円〕 □【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業〔12,969 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕																																																
1 2 情報発信 （1）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】 ア 学術情報の集約 - 収蔵資料のデータ整備を行う。 - 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。 イ 発信基盤の整備 - 北海道博物館ウェブサイト全体の中にアイヌ民族文化研究センターからの情報発信等を位置付ける（具体的には旧センターウェブサイトのコンテンツの移行や、今後の新たな情報発信に向けたさまざまな設定等）。 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備・運用を引き続き進める。 （2）ICT などを活用した情報発信機能の強化 - 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。 - ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。 - ソーシャルメディアについては利用者の反応の分析を行い、発信の仕方を見直すことで情報発信力の一層の強化につなげる。 - 平成 32 年度に予定されている情報システム更新時に情報発信機能をどのようにするのか、そのあり方について引き続き検討を行う。 （3）道民の「知りたい」気持ちへの支援 - 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。 - 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し、一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備する。企画展等に関連した図書展示に加え、総合展示の理解を深めるための図書の展示を充実させる。 - 図書の収集・廃棄方針を整備し、不足する分野の収集に努めるとともに、利用見込みのない図書の廃棄を進めて書庫利用の効率化を図る。 - レファレンス記録率の一層の向上を目指して記録票記入を引き続き呼びかけ、レファレンス内容について館内で情報を共有化する取り組みを引き続き進める。 来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 <table><tr><th>設 定 内 容</th><th>目標値（平成 31 年度）</th></tr><tr><td>写真の提供件数</td><td>70 件</td></tr><tr><td>レファレンス件数</td><td>800 件</td></tr><tr><td>アンケート、その他の利用件数</td><td>100 件</td></tr></table> （参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月） <table><tr><th rowspan="2">設定内容</th><th rowspan="2">目標値（5年間）</th><th colspan="4">実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）</th></tr><tr><th>平成 27 年度</th><th>平成 28 年度</th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th></tr><tr><td rowspan="2">写真の提供件数</td><td rowspan="2">350 件</td><td colspan="4">468 件</td></tr><tr><td>132 件</td><td>98 件</td><td>112 件</td><td>126 件</td></tr><tr><td rowspan="2">レファレンス件数</td><td rowspan="2">4,000 件</td><td colspan="4">1,346 件</td></tr><tr><td>280 件</td><td>203 件</td><td>392 件</td><td>471 件</td></tr><tr><td rowspan="2">アンケート、その他の利用件数</td><td rowspan="2">500 件</td><td colspan="4">77 件</td></tr><tr><td>12 件</td><td>13 件</td><td>30 件</td><td>22 件</td></tr></table> 【判断数値】 - 写真の提供件数（70 件） - レファレンス件数（800 件） - アンケートその他の利用件数（100 件） （4）アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】 - 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 31 年度は次の 2 点を実施する。	設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）	写真の提供件数	70 件	レファレンス件数	800 件	アンケート、その他の利用件数	100 件	設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）				平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	写真の提供件数	350 件	468 件				132 件	98 件	112 件	126 件	レファレンス件数	4,000 件	1,346 件				280 件	203 件	392 件	471 件	アンケート、その他の利用件数	500 件	77 件				12 件	13 件	30 件	22 件	1 2 情報発信 （1）情報発信機能の強化 ○情報システムの更新による北海道博物館の資料情報の管理・発信 - 資料情報の一元管理 - データの安全な保存 - 情報セキュリティ対策の実施 - 情報へのアクセス機能の向上 ○ウェブサイトの利便性向上（システムを更新）による情報発信の強化〔年間アクセス件数見込、約 260,000 件〕 ○ソーシャルメディア（ツイッター）を活用した情報発信〔年度末時フォロワー数見込、約 3,500 件〕 △情報システムを活用した関係機関とのネットワーク構築に向けての検討・取組 （2）道民の「知りたい」気持ちへの支援 ○図書室の充実〔年間利用者見込 3,500 人程度（うち図書室のみの利用者 35 人程度）、年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度〕 - 北海道の自然・歴史・文化についての道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入 - 北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入 - 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 - 企画展示および総合展示のを深めるための図書の展示を充実 ○レファレンス機能の強化〔年間見込 560 件程度〕 - さまざまな機関、個人からの問い合わせに対し、北海道博物館の専門性と博物館ネットワークの総力をあげ真摯に対応 写真提供〔年間見込 120 件程度〕 レファレンス〔年間見込 420 件程度〕 アンケートへの協力、その他〔年間見込 20 件程度〕 △【新規】リファレンス数の拡充に向けた広報の検討・取組 △多様な方法による多様な分野に関わる問い合わせに対し、利用者にストレスを与えないスムーズな受け答えを可能にするための対応策を検討 【情報発信に関わる予算】 □【拡充】文化振興事業費（北海道博物館事業費：情報システム整備費）〔7,642 千円〕 □北海道博物館試験研究費（情報集積推進事業）〔図書購入 680 千円〕（再掲）
設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）																																																
写真の提供件数	70 件																																																
レファレンス件数	800 件																																																
アンケート、その他の利用件数	100 件																																																
設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）																																															
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																																												
写真の提供件数	350 件	468 件																																															
		132 件	98 件	112 件	126 件																																												
レファレンス件数	4,000 件	1,346 件																																															
		280 件	203 件	392 件	471 件																																												
アンケート、その他の利用件数	500 件	77 件																																															
		12 件	13 件	30 件	22 件																																												

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。 ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を引き続き定期的に共有し、対応力の向上を図る。 【判断数値】 ・ レファレンス件数（100 件） ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（2 件）									
1 3 人材育成機能の強化 （1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ・ 博物館実習（館務実習）を夏季に 1 回実施する。 ・ 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。 ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。 【判断数値】 ・ 博物館実習の受入件数（4 件） ・ インターンシップの受入件数（6 件） （2）外来研究員の受入 ・ 引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案をはかる。 （3）派遣研修 ・ 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。 【判断数値】 ・ 博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4 件）	1 3 人材育成機能の強化 （1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ○博物館実習生の受入れ〔年間 1 回（2 週間）、20 人上限〕 ○見学実習の受入れ〔年間見込 7 件（各 1 日程度）、延べ 100 人程度〕 ○インターンシップの受入れ〔年間見込 7 件（各 1 日程度）、延べ 30 人程度〕 ○大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣 （2）外来研究員の受入 △外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備 （3）当館職員の資質向上 ○文化庁、日本博物館協会、北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施される博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加〔年間見込 10 件、延べ 20 人程度〕								
1 4 研究成果の発信と社会貢献 （1）学術刊行物などの刊行 ・ 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号を刊行する。 ・ 研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても遡及して著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。 ・ 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。 ・ 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。 （2）学会への発信 ・ 学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について継続的に検討を進める。 （3）職員の対外貢献 ・ 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。 （4）外部機関との事業連携 ・ 引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。 （5）道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 ・ 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。 ・ 第 2 期中期目標・計画（平成 32～36 年度）を策定する。 ・ 「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実施に向けた検討を進める。 ・ ユニバーサル・ミュージアムに対応した博物館活動を検討し、実施する。実施にあたっては、文化庁などからの外部資金の獲得を目指す。 ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。 社会貢献の目標値は、次のとおりとする。 <table><tr><th>設 定 内 容</th><th>目標値（平成 31 年度）</th></tr><tr><td>新聞・報道対応の件数</td><td rowspan="5">計 180 件</td></tr><tr><td>学会発表の件数</td></tr><tr><td>学術雑誌等への寄稿の件数</td></tr><tr><td>招待講演の件数</td></tr><tr><td>各種委員・共同研究員等委嘱の件数</td></tr></table>	設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）	新聞・報道対応の件数	計 180 件	学会発表の件数	学術雑誌等への寄稿の件数	招待講演の件数	各種委員・共同研究員等委嘱の件数	1 4 研究成果の発信と社会貢献 （1）学術刊行物などの刊行 ○『北海道博物館研究紀要』第 6 号の刊行（3 月刊行、900 部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他） ○『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 6 号の刊行（3 月刊行、900 部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他） ○第 6 回特別展「恐竜展 2020」展示図録の刊行（6 月刊行、部数：検討中） ○企画テーマ展解説パンフレットの刊行〔年間 3 回〕 ・ 第 17 回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考えるー北海道博物館資料＋栢谷隆男氏コレクションー」（4 月刊行、3,000 部、配布先：来館者、その他） ・ 第 18 回企画テーマ展「お葬式（仮題）」（10 月刊行、3,000 部、配布先：来館者、その他） ・ 第 19 回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫（仮題）」（2 月刊行、3,000 部、配布先：来館者、その他） ○アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するためのアイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全 1～10 巻）の増刷・配布〔都度実施〕 ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」を活用し、『北海道博物館研究紀要』ならびに『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保証〔『研究紀要』編集委員会：年間 5 回程度、『センター研究紀要』編集委員会：年間 5 回程度〕 （2）学会への発信 ○学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆〔年間 35 件程度〕 ○学会、研究会等での発表〔年間 20 件程度〕 （3）職員の対外貢献 ○招待講演（講座・講演会）等への職員派遣〔年間 60 件程度〕 ○各種委員等〔年間 70 件程度〕 ・ 各種委員等（年間 30 件程度） ・ 非常勤講師（年間 10 件程度） ・ 学術的な協力（指導助言等）（年間 30 件程度） （4）外部機関との事業連携 ○他機関等との連携・協力〔年間 22 件程度〕 ・ 市民・他団体との連携（年間 10 件程度） ・ 学会および研究会との交流（年間 2 件程度）
設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）								
新聞・報道対応の件数	計 180 件								
学会発表の件数									
学術雑誌等への寄稿の件数									
招待講演の件数									
各種委員・共同研究員等委嘱の件数									

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

その他の件数					
（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）					
設定内容	目標値（５年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
社会貢献件数合計	900 件	1,648 件			
		318 件	554 件	480 件	296 件
新聞・報道対応の件数		1,219 件			
		128 件	343 件	310 件	438 件
学会発表の件数		108 件			
		43 件	25 件	24 件	16 件
学術雑誌等への寄稿の件数		134 件			
		32 件	45 件	23 件	34 件
招待講演の件数		284 件			
		68 件	60 件	65 件	91 件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		144 件			
		38 件	43 件	35 件	28 件
その他の件数		103 件			
		9 件	38 件	23 件	33 件
（６）アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号を刊行する。 - 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。 『アイヌ文化紹介小冊子』の配布・活用を図るとともに、小冊子収録の学習情報をウェブサイトに掲載する。またウェブサイト上において、新たに学習のための情報を随時掲載していく枠組みを策定する。 - 北海道博物館の広報誌「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。 【判断数値】 「ちゃれんがニュース」の記事数（4 件） - 他機関の機関紙等での記事の掲載数（2 件） - 道内市町村等との連携・協力件数（2 件） - 新聞・報道対応件数（5 件） - 講演依頼件数（8 件） - 各種委員への就任件数（8 件）					
（３）アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】 ア 総合展示室の運営 以下の３点について、所管グループとの連携の下、実施する。 ① クローズアップ展示の運用 - 第2テーマのクローズアップ展示 3、4 について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画に基づき、入替えを実施する。 - 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。 - 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。 ② 「アイヌ文化 Q & A」コーナーの運用 - 更新の計画を具体的に定め、定期的な更新を実施する。 ③ 展示資料の定期的な入替え - コーナー及び資料の種別に応じた入替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替えを実施する。 - iPad を利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新を実施する。 【判断数値】 ① クローズアップ展示（クローズアップ展示 3、4 とも、 各 3 回） ② アイヌ文化 Q&A（更新年間 3 回（質問 6 件）） ③ 総合展示資料入れ替え （衣服及び関連資料 4 回、装身具・祭具等 1 回、ノート等 1 回） イ 企画展示の開催 - 平成 31 年度の第 14 回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力をはかる。					
・国・都道府県・市町村等との連携（年間 5 件程度） ・外部団体等の研修への協力（年間 5 件程度） （５）道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 ○「北海道総合計画」（平成 28 年度～令和 7 年度）などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・公表を推進 ○アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総合的に捉え持続可能な共生社会を模索する研究の推進 ▲【重点／新規】樺太記憶継承事業の展開計画の作成 ▲【重点／新規】北海道開拓記念館開館 50 年（2021 年）、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館 20 年（2021 年）、北海道開拓の村開村 40 年（2023 年）、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所 30 年（2024 年）を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組 1 5 アイヌ民族文化研究センターの事業 （１）資料の収集・整理・公開 ○資料収集と整備 - 未整理資料の整理・データ登録・配架 - 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理 ○収蔵資料の公開 - 資料閲覧への対応（年間 25 件程度） - 公開資料の作成（諸手続含む）（年間 3 点程度） - 公開資料の作成計画の策定 （２）展示 ○総合展示室第 2 テーマにおける展示資料の入替え〔年間延べ 6 点程度〕（再掲） - 衣服（4 回）、装身具・祭具等（1 回）、筆録ノート等（1 回）の入替え - iPad を利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新 - 入替え計画の作成 ○クローズアップ展示コーナーの更新〔年間延べ 6 回〕（再掲） - クローズアップ展示 3（第 2 テーマ）〔年間 3 回〕 「伝承者が生きた近現代 平賀さだもさん」 「祈りの造形―狐神の舟」 「キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料」 - クローズアップ展示 4（第 2 テーマ）〔年間 3 回〕 「灰場武雄さんがつくったトンコリ（五弦琴）」					

新旧対照表（平成 31 年度年度計画／令和 2 年度年度計画【原案】） 令和 2 年 3 月 25 日

- 平成 31 年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。 - 平成 32 年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。 ウ 巡回展の開催 - 平成 31 年度の巡回展を開催するとともに、平成 32 年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成 30 年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。 【判断数値】 - 第 14 回企画テーマ展の来場者数（7000 人） - 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96％） （２）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】 ア 調査研究事業 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の 2 つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。 - 平成 30 年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 - ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 - 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。 【判断数値】 - 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 - アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題 4 件） - アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題 4 件） - 海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題 2 件） 成果発表の目標値＝①②③併せて計 4 件 - 科研等の補助金件数（4 件） イ 資料収集と整備 - 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。 - 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。 - 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。 【判断数値】 - 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）（2 資料群） - 収集する資料の件数（2 件） - 資料の所在調査等の実施件数（10 件） ウ 資料公開 - 資料公開手続きを再開（実施）する。 - 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。 【判断数値】 - 公開する資料件数（5 件） - 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20 件） （４）アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】 - 平成 30 年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。 - グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。 【判断数値】 - グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 40 件） - はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 80 件） - 上記以外に行う館内イベント件数（4 件） （１）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】 ア 学術情報の集約 - 収蔵資料のデータ整備を行う。 <td> 「新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち」 「渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化」 ○来館者参加型展示コーナーの入替え〔年間延べ 3 回程度〕（再掲） - アイヌ文化 Q & A（第 2 テーマ）（年間 3 回（質問数延べ 6 件）程度） ○企画テーマ展の開催〔年間 3 回〕（再掲） - 第 17 回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考えるー北海道博物館資料＋枅谷隆男氏コレクションー」 開催期間：4 月 25 日(土)～5 月 24 日(日) 会場：特別展示室 - 第 18 回企画テーマ展「お葬式」（仮題） 開催期間：10 月 24 日(土)～12 月 13 日(日) 会場：特別展示室 - 第 19 回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」（仮題） 開催期間：2 月 6 日(土)～4 月 4 日(日) 会場：特別展示室 ○アイヌ文化巡回展の開催〔年間 1 回〕（再掲） 開催期間：令和 2 年 7 月～11 月頃 会場：木田金次郎美術館 △総合展示室第 2 テーマ、クローズアップ展示コーナー、来館者参加型展示コーナーの入替え計画の検討・作成（他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討） △企画展等の中期計画の検討・作成（他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力） （３）調査研究 ○アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト〔道費による研究：2 課題〕（再掲） - 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実 施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） - アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（仮題）」（継続：平成 28～令和 2 年度） 「アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究（仮題）」（新規：令和 2～4 年度） 「北方文化圏の中のアイヌ音楽（仮題）」（継続：平成 29～令和 4 年度） 「1945 年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～5 年度） ○北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施〔道費による研究：2 課題〕（再掲） - 北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度） ※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘 - 寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度） ※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、アルバータから研究者を招聘 ○【新規】収集した樺連資料に関する調査研究〔道費による研究〕（再掲） ○科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施 〔競争的外部資金による研究：2 課題〕（再掲） - アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度） - 考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究（若手）（継続：平成 30～令和 3 年度） ※令和 2 年度以降の新規課題については、3 件申請中。 △これまでの調査研究の成果を踏まえた事業展開の検討 △総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる外部資金の獲得にむけた検討・取組 （４）教育普及事業 ○学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施〔年間 40 件程度〕（再掲） ○はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施〔年間 140 クラス程度〕（再掲） ○諸行事の実施〔年間 16 件 19 回〕（再掲） - 子どもワークショップ（2 件 2 回） - ちゃれんがワークショップ（2 件 3 回） - 講演会（外部講師による講演）（2 件 2 回） - ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座）（7 件 7 回） - アイヌ語講座（1 件 3 回） - 特別イベント（2 件 2 回） </td>	「新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち」 「渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化」 ○来館者参加型展示コーナーの入替え〔年間延べ 3 回程度〕（再掲） - アイヌ文化 Q & A（第 2 テーマ）（年間 3 回（質問数延べ 6 件）程度） ○企画テーマ展の開催〔年間 3 回〕（再掲） - 第 17 回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考えるー北海道博物館資料＋枅谷隆男氏コレクションー」 開催期間：4 月 25 日(土)～5 月 24 日(日) 会場：特別展示室 - 第 18 回企画テーマ展「お葬式」（仮題） 開催期間：10 月 24 日(土)～12 月 13 日(日) 会場：特別展示室 - 第 19 回企画テーマ展「久保寺逸彦文庫」（仮題） 開催期間：2 月 6 日(土)～4 月 4 日(日) 会場：特別展示室 ○アイヌ文化巡回展の開催〔年間 1 回〕（再掲） 開催期間：令和 2 年 7 月～11 月頃 会場：木田金次郎美術館 △総合展示室第 2 テーマ、クローズアップ展示コーナー、来館者参加型展示コーナーの入替え計画の検討・作成（他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討） △企画展等の中期計画の検討・作成（他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力） （３）調査研究 ○アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト〔道費による研究：2 課題〕（再掲） - 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実 施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「北海道博物館所蔵のアイヌ民具資料を含む道内博物館等施設所蔵のアイヌ民具資料に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「キーステン・レフシン資料の整理と公開（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） - アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（新規：令和 2～6 年度） ＜個別課題＞ 「アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究（仮題）」（継続：平成 28～令和 2 年度） 「アイヌ歌謡の演唱に関する言語学的・音楽学的研究（仮題）」（新規：令和 2～4 年度） 「北方文化圏の中のアイヌ音楽（仮題）」（継続：平成 29～令和 4 年度） 「1945 年以降にサハリン・千島から北海道に移住したアイヌ民族に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～6 年度） 「近現代におけるアイヌ民族の地域社会形成・社会参画に関する基礎的調査（仮題）」（新規：令和 2～5 年度） ○北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施〔道費による研究：2 課題〕（再掲） - 北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度） ※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘 - 寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度） ※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流 ※令和 2 年度は、アルバータから研究者を招聘 ○【新規】収集した樺連資料に関する調査研究〔道費による研究〕（再掲） ○科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施 〔競争的外部資金による研究：2 課題〕（再掲） - アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度） - 考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究（若手）（継続：平成 30～令和 3 年度） ※令和 2 年度以降の新規課題については、3 件申請中。 △これまでの調査研究の成果を踏まえた事業展開の検討 △総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる外部資金の獲得にむけた検討・取組 （４）教育普及事業 ○学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施〔年間 40 件程度〕（再掲） ○はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施〔年間 140 クラス程度〕（再掲） ○諸行事の実施〔年間 16 件 19 回〕（再掲） - 子どもワークショップ（2 件 2 回） - ちゃれんがワークショップ（2 件 3 回） - 講演会（外部講師による講演）（2 件 2 回） - ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座）（7 件 7 回） - アイヌ語講座（1 件 3 回） - 特別イベント（2 件 2 回）
--	--

・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。 イ 発信基盤の整備 ・ 北海道博物館ウェブサイト全体の中にアイヌ民族文化研究センターからの情報発信等を位置付ける（具体的には旧センターウェブサイトのコンテンツの移行や、今後の新たな情報発信に向けたさまざまな設定等）。 ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備・運用を引き続き進める。 （４）アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】 ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 31 年度は次の 2 点を実施する。 ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。 ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を引き続き定期的に共有し、対応力の向上を図る。 【判断数値】 ・ レファレンス件数（100 件） ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（2 件） （６）アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】 ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号を刊行する。 ・ 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。 ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』の配布・活用を図るとともに、小冊子収録の学習情報をウェブサイトに掲載する。またウェブサイト上において、新たに学習のための情報を随時掲載していく枠組みを策定する。 ・ 北海道博物館の広報誌「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。 【判断数値】 ・ 「ちゃれんがニュース」の記事数（4 件） ・ 他機関の機関紙等での記事の掲載数（2 件） ・ 道内市町村等との連携・協力件数（2 件） ・ 新聞・報道対応件数（5 件） ・ 講演依頼件数（8 件） ・ 各種委員への就任件数（8 件）	（５）博物館ネットワーク ●▲【重点／新規】ウポボイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化（再掲） ・ アイヌ文化展示を有する博物館への誘客促進につながる事業の実施 ・ 今後の連携・協働・役割分担についての協議およびその計画作成 （６）情報発信 ○学術情報の集約 ・ アイヌ民族文化研究センターの収蔵資料データ、調査データ、研究成果の集約 ・ 北海道においてこれまでに実施されてきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議、およびデータ提供に向けた体制整備 ○ホームページによる情報提供 ・ 北海道博物館ホームページにアイヌ民族文化研究センターからの情報発信ページを設け、発信基盤を整備 ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の運用 ※「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」；旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進め、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。現在は北海道博物館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し視聴することができますようになっている。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けている。 ・ アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するためのアイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全 1～10 刊）を掲載 ・ 新たに学習のための情報を随時掲載していくなど、情報の追加や更新をしていくための枠組みの策定、体制の整備 ○図書の購入（再掲） ・ アイヌ民族の歴史や文化についての道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入 ・ 北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入 ○リファレンス機能の強化〔年間見込 100 件程度〕（再掲） ・ さまざまな機関、個人からの問い合わせに対し、北海道博物館の専門性の総力をあげ真摯に対応 △調査研究課題の成果を反映させる展示会等の情報発信計画を検討 （７）人材育成 ○学習・伝承活動の支援 ・ 市町村やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられるアイヌ文化の学習や伝承活動に関する依頼に対し、専門的見地から助言・支援 （８）研究成果の発信と社会貢献 1）学術刊行物などの刊行 ○『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 6 号の刊行（3 月刊行、900 部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他）（再掲） ○アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』（全 1～10 巻）の増刷・配布〔都度実施〕（再掲） ○広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信（年間 4 回（季刊）刊行） ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」を活用し、『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保証〔年間 5 回程度〕（再掲） 2）学会への発信 ○学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆〔年間 7 件程度〕 ○学会、研究会等での発表〔年間 4 件程度〕 3）職員の対外貢献 ○招待講演（講座・講演会）等への職員派遣〔年間 12 件程度〕 ○各種委員等〔年間 14 件程度〕 ・ 各種委員等 ・ 非常勤講師 ・ 学術的な協力（指導助言等） 4）外部機関との事業連携 ○他機関等との連携・協力〔年間 4 件程度〕 ・ 市民・他団体との連携 ・ 学会および研究会との交流 ・ 国・都道府県・市町村等との連携
---	---

	・外部団体等の研修への協力 5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 ○アイヌ民族の歴史や文化を踏まえた持続可能な共生社会を模索する研究の推進 ●【重点／新規】樺太記憶継承事業への参画 ▲【重点／新規】北海道立アイヌ民族文化研究センター開所 30 年（2024 年）を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組 【アイヌ民族文化研究センターの事業に関する会議】 ★センター職員会議の定例開催により、事業を円滑に管理・実施 【アイヌ民族文化研究センターの事業に関わる予算計上】 □北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター分）[3,288 千円] □【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業 [12,969 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き]（再掲）
【外部評価項目】ガバナンス体制の育成 （１）館内の意思決定機関の育成 ・ 意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。 ・ 博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。 ・ 事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。 ・ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関への PR を図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。 （２）研究センター内の意思決定機関の育成【アイヌ研】 ・ アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ② 研究センター職員による会議を引き続き定期的に関き、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。 （３）道庁の支援体制の育成 ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。 ・ 赤れんが庁舎のリニューアルに向けて、平成 31 年9月末に赤れんが庁舎が閉鎖されることから、「北海道博物館赤れんがサテライト」の撤去や、リニューアル後の歴史・文化に係る展示について、関係課や博物館と調整し、取り組んでいく。 ・ 「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」について、構想策定後は、その実現に向けて様々な取組を進めていくことになるが、博物館と役割分担を行った上で、互いに連携協力して取り組んでいく。	【別紙】 ガバナンス体制の確立 （１）博物館内の意思決定体制 ○最終意思決定機関としての運営会議の実施 ・ 構成員：館長（議長）、副館長、部長、各グループ主幹、総務部総括グループ統括主査 ○アイヌ民族研究センターの意思決定体制 ・ センター職員による会議を定例（都度）実施 ⇄ 運営会議 （２）博物館内の目標・業務管理体制 ○目標管理体制 ・ 各種会議等 ⇄ 事務局グループ（←部長の管理・監督） ⇄ 運営会議 ・ 職員個々の目標設定とその管理 ・ 職員全体会議の実施（都度実施） ・ 内部評価・外部評価を活用した PDCA サイクルによる目標管理 ○業務管理体制 ・ 館長 ⇄ 副館長 ⇄ 部長 ⇄ グループ主幹 ⇄主査 ⇄ 係（業務ライン） ・ 朝の全体ミーティング（開館日毎日）による 1 日ごとの業務管理 （２）道庁と博物館との連携 ○道庁（窓口：文化振興課）と博物館の連携 ※道庁と博物館の連携構造 ・ 道庁→博物館（関係部局からの情報の提供、政策に基づく事業提案、各種照会、視察対応） ・ 博物館→道庁（事業提案、予算要求、事業報告、各種協力要請） ↓ ・ 博物館⇄道庁（上記の各種案件に関わる情報共有・協議・課題解決・事業実施）